

テーマ：消費者物価（全国13年11月、東京都区部13年12月）

～当面、+1%超えで高原状態の推移を予想。正念場は14年度～

発表日：2013年12月27日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

（単位：%）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料（酒類除く）及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料	総合	生鮮除く総合	食料（酒類除く）及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
12	1月	0.1	▲ 0.1	▲ 0.9	4.3	0.3	▲ 0.2	▲ 0.4	▲ 1.1	4.4	▲ 0.3
	2月	0.3	0.1	▲ 0.6	3.0	0.4	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 1.1	3.9	▲ 0.2
	3月	0.5	0.2	▲ 0.5	4.2	0.3	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 1.0	5.3	▲ 0.2
	4月	0.4	0.2	▲ 0.3	3.9	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 1.0	3.5	▲ 1.2
	5月	0.2	▲ 0.1	▲ 0.6	1.5	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 1.3	0.3	▲ 0.7
	6月	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.6	▲ 1.7	0.1	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 3.2	▲ 0.6
	7月	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 4.0	0.1	▲ 0.8	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 5.0	▲ 0.6
	8月	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 4.1	0.0	▲ 0.7	▲ 0.5	▲ 0.9	▲ 3.8	▲ 0.8
	9月	▲ 0.3	▲ 0.1	▲ 0.6	1.8	▲ 0.1	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 1.1	2.5	▲ 0.7
	10月	▲ 0.4	0.0	▲ 0.5	3.9	▲ 0.2	▲ 0.8	▲ 0.4	▲ 1.0	3.4	▲ 0.9
	11月	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.5	2.8	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.5	▲ 0.9	2.4	▲ 1.0
	12月	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 0.6	3.1	▲ 0.4	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 1.0	1.7	▲ 1.2
13	1月	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 0.7	4.8	▲ 0.4	▲ 0.5	▲ 0.5	▲ 0.9	3.8	▲ 1.0
	2月	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.9	7.9	▲ 0.5	▲ 0.9	▲ 0.6	▲ 1.0	7.0	▲ 1.1
	3月	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 0.8	1.8	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 0.9	▲ 1.2
	4月	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 0.6	▲ 0.9	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 1.7	▲ 0.8
	5月	▲ 0.3	0.0	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.2	0.1	▲ 0.3	0.0	▲ 0.7
	6月	0.2	0.4	▲ 0.2	5.0	▲ 0.3	0.0	0.2	▲ 0.4	6.2	▲ 0.6
	7月	0.7	0.7	▲ 0.1	8.4	▲ 0.3	0.4	0.3	▲ 0.4	9.5	▲ 0.4
	8月	0.9	0.8	▲ 0.1	10.5	0.0	0.5	0.4	▲ 0.4	9.9	0.1
	9月	1.1	0.7	0.0	7.6	0.1	0.5	0.2	▲ 0.4	7.6	0.2
	10月	1.1	0.9	0.3	6.4	0.2	0.6	0.3	▲ 0.2	5.7	0.4
	11月	1.5	1.2	0.6	7.7	0.4	1.0	0.6	0.2	7.0	0.4
	12月	—	—	—	—	—	0.9	0.7	0.3	5.8	0.6

（出所）総務省統計局「消費者物価指数」

○ 2008年11月以来の+1%台

総務省より発表された2013年11月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+1.2%（10月+0.9%）と、前月からプラス幅が0.3%Pt拡大した。結果は市場予想（+1.1%）をやや上回った。

CPIコアはこれまで上昇幅を順調に拡大させてきたが、11月はずいに+1%を突破した。上昇幅が+1%を超えるのは08年11月以来のことである。また、今月は食料・エネルギーを除く総合（米国型コア）の改善がプラス幅拡大の主因となっており、内容も良好だ。米国型コアは10月にプラス転化したが、11月には前年比+0.6%と、前月（+0.3%）から一段とプラス幅を拡大させている。+0.6%という上昇幅は、実に1998年8月以来の高さ。米国型コアの上昇は、エネルギー以外の品目にも改善の動きが出ていることを示している。これまではエネルギー頼りの物価上昇だったが、足元では徐々に内容を伴った物価上昇に変わりつつある。国内景気の良い調子が持続していることが、物価にも好影響を与えているのだろう。足元では上昇品目に広がりが出始めていることも好材料だ。

CPIコアを品目別に見ると、電気冷蔵庫やルームエアコンなどの家庭用耐久財（前年比寄与度、10月：▲0.03%Pt → 11月：▲0.01%Pt）や、テレビなどの教養娯楽用耐久財（前年比寄与度、10月：▲0.02%Pt → 11月：0.00%Pt）など、耐久財の改善が目立った。パソコン等の上昇も継続しており、このところの耐久財価格の改善トレンドが続いている。なお、家庭用耐久財や教養娯楽用耐久財などを合わせた「耐久消費財」価格は11月に前年比+0.3%とプラスに転じている。耐久消費財価格がプラスになるのは1992年9月以来のことである。

そのほかの品目では、外国パック旅行や宿泊料がプラス寄与を拡大させたほか、前年の値下げの裏が出たことで携帯電話機（前年比寄与度、10月：▲0.01%Pt → 11月：+0.03%Pt）がプラスに転じたことなどが目立った。また、ガソリン価格は前年の裏が出たことでプラス幅が高まったほか、食料品（生鮮除く）もプラス寄与がやや拡大した。電気代、ガス代には大きな変化はない。

なお、季節調整済みの前月比で見ると、CPIコアが+0.2%（10月：+0.2%）、米国型コアも+0.2%（10月：+0.2%）と、ともに2ヶ月連続でプラスだった。コア、米国型コアとも改善が確認できる。

○ 東京都区部の動向

2013年12月の東京都区部消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+0.7%と、プラス幅が前月（+0.6%）からやや拡大した。結果は市場予想通り。また、米国型コアも前年比+0.3%と、前月の+0.2%から小幅改善している。

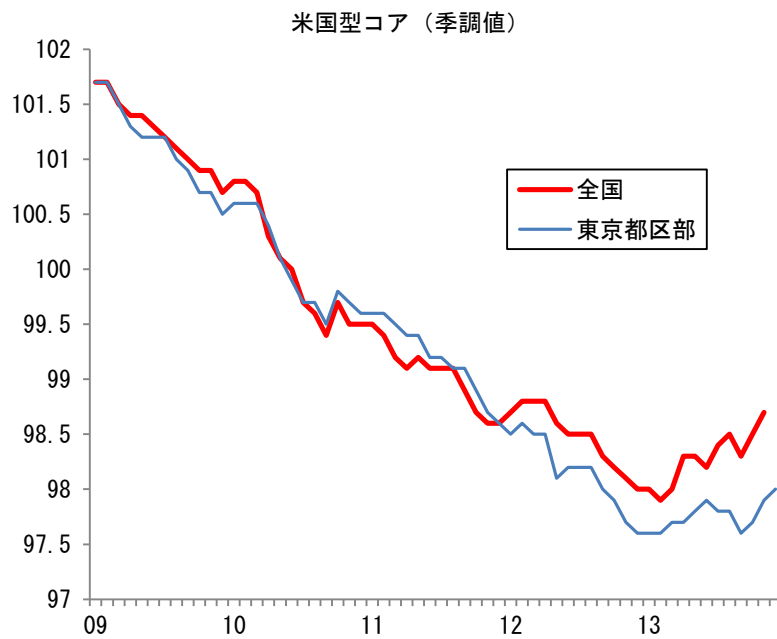
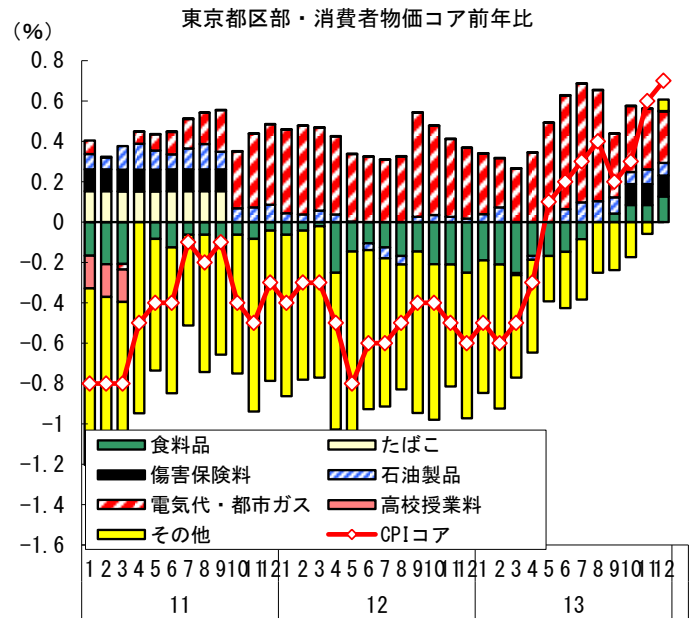
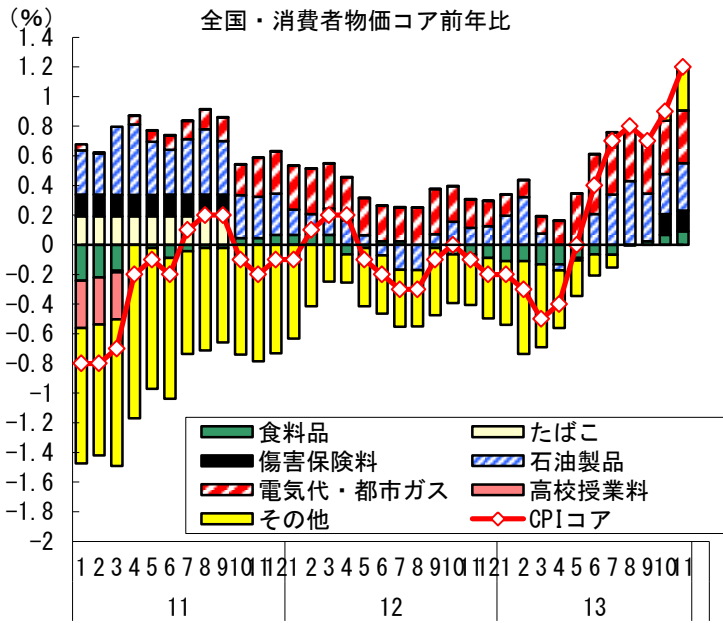
都市ガス代の値下げによりエネルギー価格のプラス寄与が縮小（前年比寄与度、11月：+0.37%Pt → 12月：+0.31%Pt）した一方、食料品（生鮮除く）のプラス寄与が拡大（前年比寄与度、11月：+0.08%Pt → 12月：+0.13%Pt）し、相殺される形になった。米国型コアに関しては今月はあまり変化がなく、宿泊料のプラス寄与拡大と外国パック旅行のプラス寄与縮小が目立った程度。なお、耐久財関連については引き続き上昇している。

季節調整済みの前月比で見ると、CPIコアが横ばい（11月：0.1%）、米国型コアは+0.1%（11月：+0.2%）だった。米国型コアは3ヶ月連続のプラスであり、緩やかな上昇基調にあるとの評価で良いだろう。

○ 当面、高原状態での推移に

東京都区部の動向から判断すると、2013年12月の全国CPIコアは前年比+1.2%が予想される。上昇幅は11月と変わらないが、引き続き+1%超えとなるだろう。その後、14年1月～4月については、前年比+1.1%～+1.4%程度の推移が予想される。上昇幅はやや高まる方向で推移しそうだ。ただし、これまでのような急ピッチでの改善からはペースが鈍ることが予想され、春までは前年比+1%台前半での高原状態といった形になりそうだ。

問題は5月以降だ。13年にエネルギー価格が大幅に上昇したことの裏が出る関係で、エネルギー価格のプラス寄与は縮小に向かう。これによりCPIコアの伸び率はいったん鈍化に向かう可能性が高く、14年夏には再び+1%割れになる可能性もあるだろう。もっとも、景気回復に伴う需給ギャップの縮小が続くことに加え、企業や家計の期待インフレ率も緩やかに上昇する可能性が高く、米国型コアは引き続き緩やかに伸び率を高めていくことが見込まれる。CPIコアが再びゼロ%近傍に近づいていくとまでは考えなくても良いだろう。筆者は、14年度を通じて+1%程度の伸びは確保できると予想している（消費税要因除く）。



(出所) 総務省「消費者物価指数」